

高知の授業の未来を創る推進プロジェクトにおける 国語科 授業づくり講座

<第1回教材研究会 第2回授業研究会>

高知市立小高坂小学校 第4学年
令和3年6月27日(火)実施

公開授業の案内や申し込み・レポートは、
高知市教育委員会 学校教育課のHPを
ご参照ください。
他のレポートも多数掲載!



発行 令和3年12月
高知市教育委員会
学校教育課 学力向上推進室



高知市立小高坂小学校において、国語科 授業づくり講座第1回<教材研究会>、第2回<授業研究会>が行われました。残念ながら新型コロナウイルス感染症予防のため公開することができず校内研修となりましたが、学習指導要領の趣旨理解や改訂の

ポイントに沿った「教材研究の仕方」、「言語活動を通した単元づくり」、「言葉による見方・考え方」、「指導と評価の一体化」などについて、第4学年の具体的な授業を通して学び合いました。



「話すこと・聞くこと」における指導と評価の充実

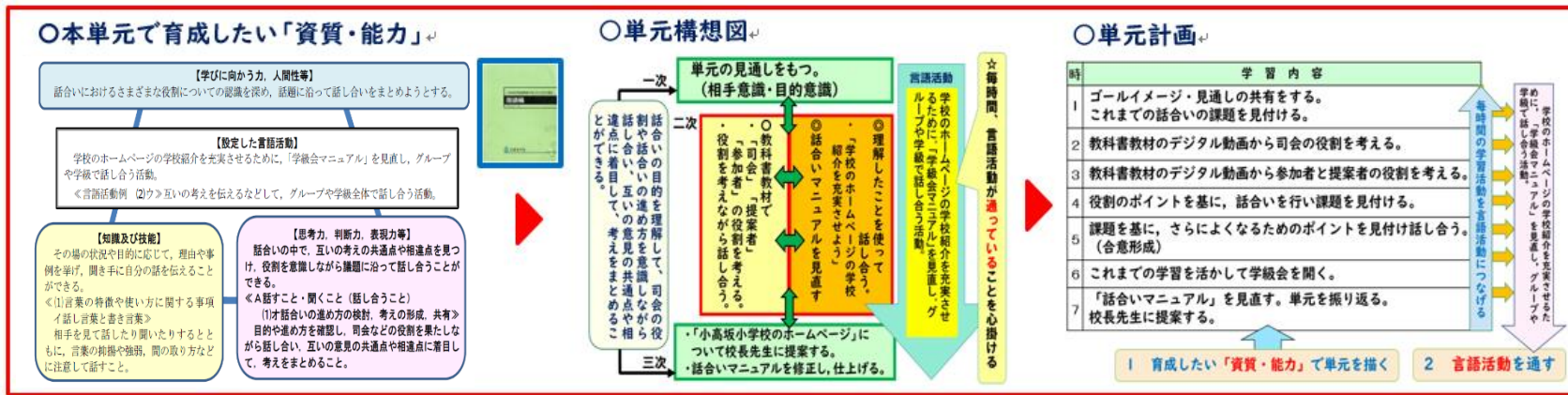
単元名：見直そう！私たちの話し合いマニュアル ～小高坂小ホームページの学校紹介を充実させよう～
教材名：「学校についてしょうかいすることを考えよう」（東京書籍 4年上）

毎時間、育成したい「資質・能力」を明確にする

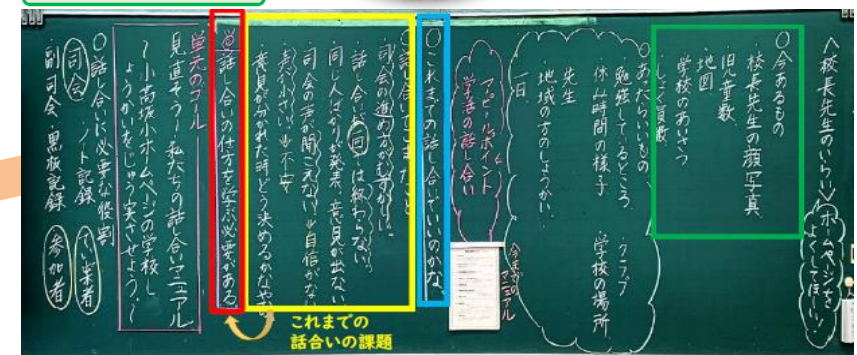
「言葉による見方・考え方」を鍛える

単元の記録

小高坂小学校のホームページをよくしたいのだけれどいいアイデアはないかな。



第一次 1/7時



学習活動

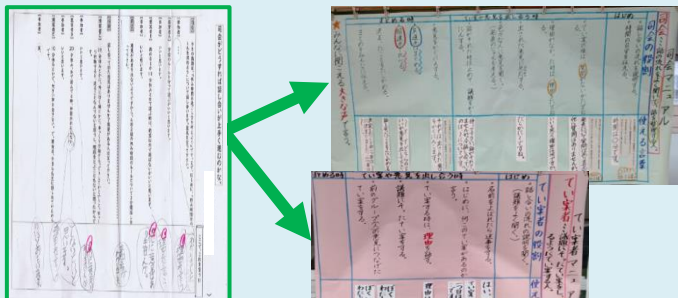
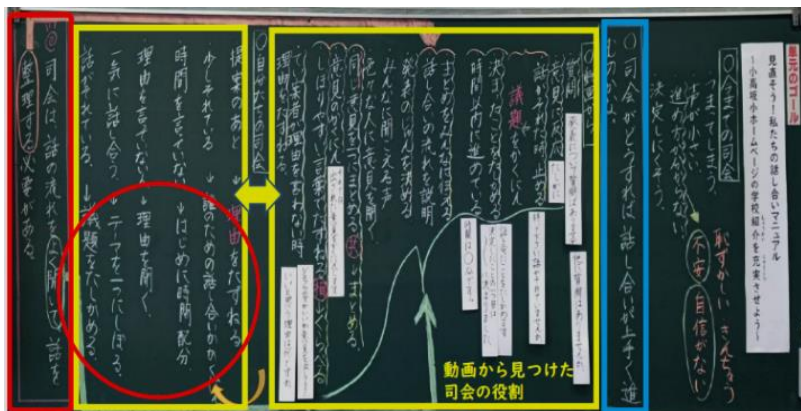
・校長先生からの依頼を受け、ホームページの内容を確認する。どのように工夫すればたくさんの人にでも見え、小高坂小学校の良さを知ってもらえるのかを考え、内容について学級会で話し合うことを確認する。
・「校長先生に依頼された大切なことを話し合うのに、これまでの学級会の仕方ではよいのか。」と問いかけることで、学ぶ必要感をもたせる。
・自分たちの学級会の動画から課題を見付ける。

主体的に取り組むためのポイント①

解決する必要がある課題の設定
話し合いを見直さなければならない
○これまでの自分たちの話し合いの様子を振り返り、うまくできなくて困ったことなどの問題を話し合う。
この学習でできるようになりたいことを明確にすることで主体的に学習に取り組むことができるようになる。

第二次 2/7時

司会・参加者・提案者の役割を考える



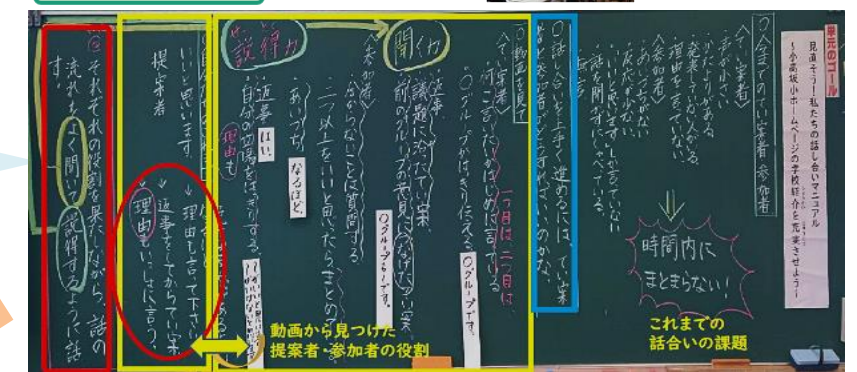
主体的に取り組むためのポイント②

「話し合いの様子（モデル）」を分析する
○司会・提案者・参加者の役割に着目して、教科書教材の「話し合い動画」を分析することで、それぞれの役割において大切なことをまとめることができるようになる。

学習活動

・教科書のモデルから司会の役割について考える。必要があれば繰り返し視聴させる。学級会でも使えるような「話し言葉」については、短冊に書き出し「司会マニュアル」に書き加える。
・自分たちの話し合いの動画を振り返り、教科書のモデル動画と比較することで改善点を見付ける。

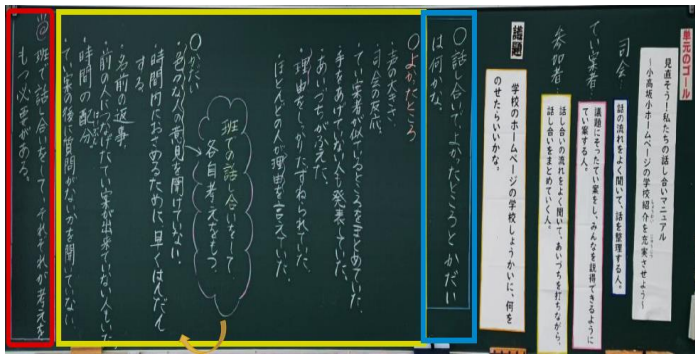
第二次 3/7時



学習活動

・教科書のモデル動画から提案者・参加者の役割について考える。必要があれば、繰り返し視聴させる。学級会でも使えるような「話し言葉」については、短冊に書き出し、「提案者マニュアル」「参加者マニュアル」に書き加える。
・自分たちの話し合いの動画を振り返り、教科書のモデル動画と比較することで、改善点を見付ける。

第二次 4 / 7時

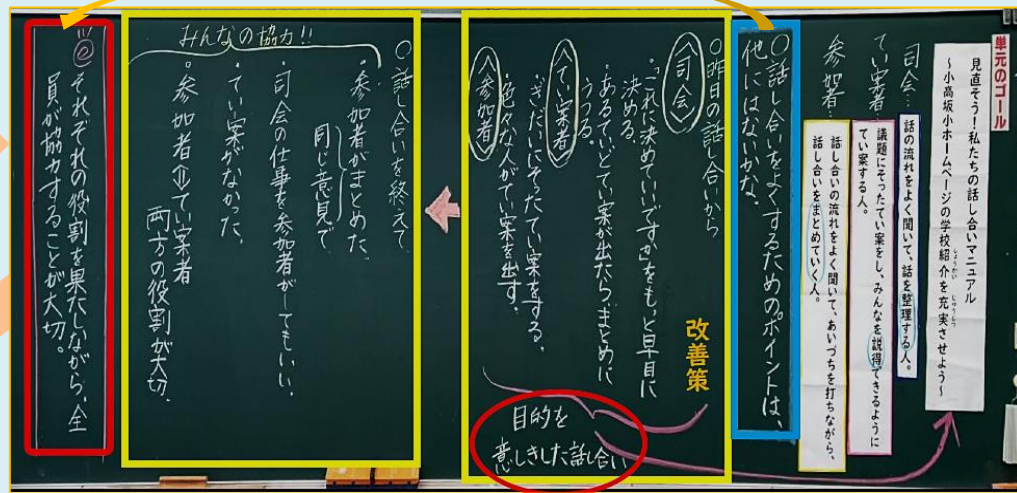


主体的に取り組むためのポイント③
話し合う必要感のある議題の設定
○実際に自分たちで話し合いを行い、司会・提案者・参加者の役割を果たしながら話し合う力を高める。
○議題は自分たちにとって、話し合う必要感のあるものを選ぶ。

学習活動

- ・司会・提案者・参加者それぞれの役割を確認し、改訂版「学級会マニュアル」を基に、話し合いを開く。
- ・自分たちの話し合いを振り返り、役割を果たすだけでは、話し合いがうまくまとめられないことに気付く。

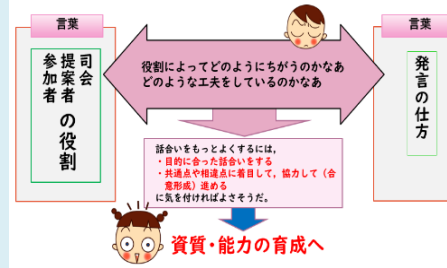
第二次 5 / 7時 (本時)



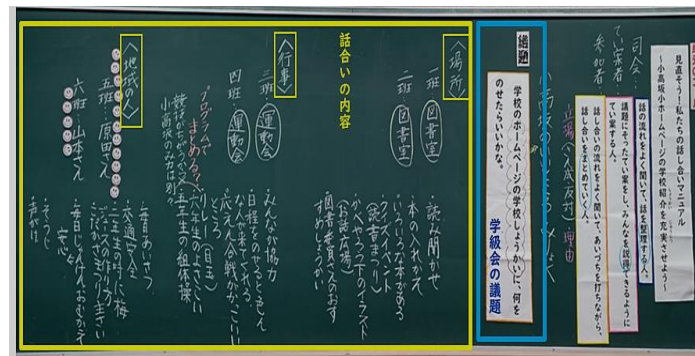
学習活動

- ・前時の話し合いが時間内にまとまらなかったことについての課題を役割ごとに話し合う。
- ・デジタル教科書の話し合い動画から、話し合いをよくするためのポイント(合意形成)を考える。
- ・六つの小グループを二つに分け、交互に話し合いの様子を評価し合う。評価する側の一人は、話し合いの様子をタブレットで録画する。他の児童は評価カードに活動状況を評価する。その後、話し合いの動画と評価カードを基に話し合いの仕方を改善する。

＜本時の「言葉による見方・考え方」を働かせている児童の姿＞



第二次 6 / 7時



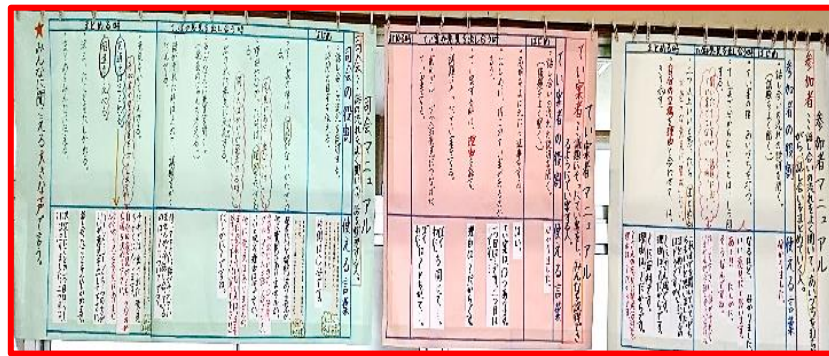
主体的に取り組むためのポイント④
話し合う必要感のある議題の設定
○実際に自分たちで話し合いを行い、司会・提案者・参加者の役割を果たしながら話し合う力を高める。
○議題は自分たちにとって、話し合う必要感のあるものを選ぶ。

学習活動

- ・「場所」「行事」「地域の人」の三つについて小グループで話し合ったことを基に、単元で学習した司会・提案者・参加者の役割や、合意形成を図るためのポイントを意識しながら学校紹介の内容について話し合う。

第三次 7 / 7時

「新 話し合いマニュアル」



学習活動

- ・学級会で話し合った「小高坂小学校のホームページの内容」について、理由を明確にして校長先生に提案する。
- ・これまでの学習を振り返り、それぞれの役割ごとに「話し合いマニュアル」を修正し、「新 話し合いマニュアル」を完成させる。

「新 話し合いマニュアル」手元版



新しい「話し合いマニュアル」を使えば、話し合いがうまくできそうだ。

本時における評価場面・評価方法



・評価するグループは、話し合いをタブレットで録画する。評価カードにはそれぞれの役割が果たしているのか記入する。

【評価規準】
【主体的に学習に取り組む態度①】
話し合いをさらによくするための改善点を見つけ、役割がうまく果たしているのか確かめながら話題に沿って話し合おうとしている。



・相手グループからの評価カードと、自分たちのグループの話し合い動画を比較し改善点を話し合う。

【評価方法】
行動観察・振り返り・タブレット
司会や提案者などの役割を考え、役割がうまく果たしているかを確かめながら、話題に沿って話し合おうとしているかの確認。

「話すこと・聞くこと」の評価について。

課題	改善策
音声言語である「話すこと・聞くこと」の評価において、一斉に活動している児童の様子を授業時間内に把握することは難しい。	○タブレットの活用 (活動の様子をタブレットで撮影する。児童の変容の様子を把握することもできる。) ○ノート、ワークシートの記述内容の活用 ○友だち同士の評価表の活用 ○授業の振り返りの活用

＜評価メモ(指導に生かす評価)の活用＞

本単元では、児童の学習状況を把握する際に、観点ごとの評価規準・評価方法に照らして適切に評価できるように、「評価メモ」を作成した。一人一人の児童の実現状況を確認・記録できるようにし、C評価の児童をB評価とするために教師が行った指導・手立てについても記入し、授業改善にも活用した。

児童名	評価	指導	手立て
山田 太郎	C	話し合いの役割を明確に説明する	役割カードを提示する
佐藤 花子	B	話し合いの進め方を確認する	話し合いの動画を録画する
鈴木 健太	A	話し合いの進め方を確認する	話し合いの動画を録画する

小高坂小学校の提案に対する講師の指導・助言(教材研究会)
講師:松永 立志 先生(元鎌倉女子大学 准教授)



○よりよい合意形成を図るための学級環境(学級経営)

よりよい合意形成を図るには、学級全員が自他の意見を尊重・受容し合い、多くの意見が生かされること、また、建設的で多様な意見や考えを積極的に出し合い、自己共に納得いく決定をすることができる学級環境が必要である。

○合意形成のプロセス

まず、それぞれの意見を出し合うことが大切。互いの意見を知ることで考えを広げることができる。次に、出された意見を比較する。目的や条件に沿って、互いの意見のよさや相違点を理解し、自己を修正したり、考えをまとめたりすることが大切。最後に、全体の意見を決定する。多様な意見の中からよりよい合意点をまとめたり、折り合いを付けたりすることが大切である。

○よりよい合意を選択するための目的や条件

何のための議題なのか(誰が・何がどうなることを目指すのか)、該当する(関係する)みんなが満足(納得)できるのか、自分たちで実現(準備・実践)が可能なのか、これらのことを意識して活動させるには、目的意識・相手意識・意図が明確な言語活動を通した単元づくりが必要である。

参加者の感想

○学級会活動の「話し合いマニュアル」は司会者のみであったが、今回の授業のように、それ以外の役割についても順次焦点を当ててポイントを考えさせ、話し合い活動を行っていくことで役割が分かり、意識して活動できるようになってきたと感じた。あまり研究されていない分野であり、タブレットも用いることで評価にも生かすことができることも含め、学ぶことが多かった。

○言語活動を設定する際に、ゴールを示すことに加えて、相手意識・目的意識を子供たちがどれだけイメージできるかが大切であり、それによって意図が生まれ、言語活動を推進していく力となり、活動を軌道修正する際の拠り所になることが分かった。学習方法を身に付けさせるには、内容への思いも大切である。子供たちが取り掛かりやすいゴールを示しがちであったので見直していきたいと思う。

○今回の授業は個々が話し合いの役割を理解し、「言葉による見方・考え方」を働かせている児童の姿が見られた授業だった。常に相手意識・目的意識を念頭に置き行き詰ったら話し合いの目的に立ち返ることをしていけば合意形成を図る力の育成ができること、特別活動等と関連付けることでさらに深い学びになることができた。

授業者より



長山 昌子 教諭

言語活動を通した単元をつくり、「わかる」⇔「できる」を何度も繰り返しながら単元を構成していくことが確実に子供たちの力に結び付くことを、子供たちの変容を通して実感として理解することができた。

「話し合い活動」の指導は、実践事例が少なく、指導方法を深く理解できていないこともあり、身に付けさせたい資質・能力を意識して一時間一時間の授業を構成することができていなかったが、授業づくり講座を通して、「言葉による見方・考え方」を働かせて資質・能力を育成する指導方法や、評価方法を明確にした評価の仕方など学ぶことができた。また、教材研究会でも課題として出された音声言語である「話すこと・聞くこと」の評価をどのように行っていくのかについて、タブレットや子供同士の評価表、また振り返りの活用など、子供たちの具体的な姿から提案することができてよかった。